

1.3 --Transformation of Paris during the Second Empire sovereignty ~第2帝政時代のパリ改造~



住所:	地図参照
物件種別:	パリの近代化 デシャン : 総合建築家、道路の設計及び工事規則の管理
建築家:	ヴィクトール・バルタール : ル・アール テオドール・バリュー : トリニテ教会 ガブリエル・ダヴィオウド : シャトレ座 ジャック・イトルフ(All) : パリ北駅 ジャン=シャルル・アルファン : 土木技術者、造園家 ジャン=ピエール・バリエ=デシャン : 庭、プロムナード、公園等の長
建築年:	1852年~1970年

ヨーロッパにおいていくつかの主要な時代は芸術の時代として特徴づけられます。

15世紀半ばまで、絵画や彫刻は商売でした。ルネッサンス以後、芸術は特定の職業となり、特権階級の生活の中にその居場所を維持していました。

当時、美の定義について2つの教義の論争がありました。自然の再現に忠実であり続けることと、ラファエロやカラッチの例にならって美を理想化すること。この2つの教義は、古代の作品及び18世紀後期までの作品の比類なき優秀さに異議を唱えるものではありませんでした。

多くの建築家は、なおも、バラディオ(1518~1580年)の著作の中に記述され、古代ギリシャの建築から着想されたピチェンツァ(イタリア)近郊の彼の有名な「ヴィラ・ロンダ」によって示されたルールが正しい様式を保証するものであると確信していました。

英国の高名な政治家の息子で、建設当時(1770年)としては奇抜なゴシック様式で自分の家を建てようとしたホレス・ウォルポール卿のような目利き人や、中国の建築(パゴダ・パーク、キュー)に興味を持っていたウィリアム・チェンバース、記録をとり、「グreek・リバイバル」を創設することによって寺院の再発見をした純粋主義者たちの間で、疑問が広がっていました。オリジナルのドリス様式やローマ様式の影響を受けた(例えば、5世紀のアテネのパルテノン)を模倣するこの様式は1810年頃に全盛を迎えました。

伝統の中断は、人と人の感情が中心の関心事であるロマン主義の時代(1824年以来)に顕在化しました。産業革命から生まれた新たな条件を作品に反映する詩情的な気楽な世界を喚起するために目に見える世界を表現しようとしました。

人口の増加や衛生状態の改善は建築を変化させました。これがヨーロッパにおいて、また、独自の様式ではなかったもののアメリカにおいても、都市の拡張の世紀でした。顧客、実業家、政治家、建築家は自らの趣味を強引に採り入れました。

オスマンの事業とも呼ばれる第2帝政時代のパリ改造は、ナポレオン3世と知事オスマンによって1852年から1870年の間に行われたフランスの首都の包括的な近代化です。



この事業には、パリの中心部とその郊外(1860年のパリの郊外コミューンの追加令)の道路や大通り、ファサード、公園、街路備品、下水溝、給水網、設備及び公共の記念碑などすべての面の計画が含まれました。

同時代の一部の人々から激しく批判され、20世紀の一時期には忘れ去られ、戦後の計画が不評であったことから再び見直されたこの事業は、今もなお街の住民による日常的な街の使い方を決定付けています。パリ旧市街とその絵のように美しい通りを大通りと広場が出現した近代パリと重ね合わせることによって、世界中でフランスの首都が人気を博す土台が作られました。

その時代以降、歴代の国家元首によって改良が行われ、その主なものとして「ポンピドーセンター」や「Peiピラミッド」のような印象的な代表的建物が建設されました。

Réalisations urbaines du Second Empire à Paris

Cet article propose une liste des opérations d'urbanismes réalisées sous le Second Empire. Certaines de ces réalisations, planifiées par le préfet Haussmann et son administration, ne seront terminées que sous la Troisième République.

Pour une présentation des travaux haussmanniens dans leur ensemble, voyez l'article principal : Transformations de Paris sous le Second Empire.



Code couleur : Selon l'année de prise du décret de percement ou d'alignement (ou du commencement des travaux en cas de différence importante). Caractères de couleur jaune en cas de voie préexistante faisant l'objet uniquement d'un alignement ou d'un élargissement.

(1854) : Année de la prise de décret pour le percement ou l'alignement

(1854-1858) : Année de la prise de décret et année de la fin des travaux si elle est connue

(1857/1866) : Année de la prise de décret et année du commencement des travaux en cas de différence importante

(1859, puis 1902) : Années des prises de décret pour des travaux différés d'alignement

Le plan figure les percements ou alignements de voies initiés sous le Second Empire et sous la Troisième République ainsi que les autres réalisations urbaines initiées ou achevées sous le Second Empire uniquement.

Places et bâtiments publics

- Île de la Cité est réaménagée. Seule la partie Dauphine et le quartier situé entre Notre-Dame de Paris et le quai des Fleurs sont conservés. En dehors des monuments historiques (Notre-Dame, Sainte-Chapelle, Conciergerie), le reste de l'île est rasé et remplacé par des équipements publics (Hôtel-Dieu, Tribunal de Commerce, caserne de la Cité qui deviendra la Préfecture de Police, ainsi que la partie occidentale du palais de Justice) ou des espaces libres (parvis de Notre-Dame et jardins). Tous les ponts actuels sont construits, reconstruits ou (dans le cas du pont Neuf) transformés de manière importante.



パルテノン (ラテンクオータ地区)



オペラハウスとオペラ通りの建設



モンスリ公園の建設